

<第171号>

事務局だより

平成29年7月10日発行

現在の会員数

合計 205名

(男性 143名)

(女性 62名)

□「安全・適性就業強化月間」

7月は、安全・適性就業強化月間です。安全就業の全国統一スローガン「事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな」を念頭に置いて、就業途上の事故、就業中の事故がないよう、次のことに気を付けましょう。

- ☆交通事故に気を付ける。被害者にも加害者にもなりえます。
- ☆作業に合った服装、履物、安全保護具（ヘルメット等）を着用する。
- ☆使用用具を必ず点検し、作業現場は常に整理整頓を心がける。
- ☆安全第一を心がけ、作業を急がない、慌てない。
- ☆複数・共同作業では、声掛け等をして連携を取る。
- ☆決して無理をしない。「このくらい・もう少し・今までは平気」は危険です。
- ☆健康状態に注意する。体調不良の時は事務所へ連絡してください。

～「熱中症」に注意！～

熱中症は、体内の水分や塩分が失われることで、吐き気やめまい、頭痛などが生じ、重症化すると死に至る危険性があります。これからの季節、特に注意しましょう。

《 熱中症対策 》

- ☆こまめに「水分と適度な塩分」を補給する。
- ☆帽子を被り、通気性の良い涼しい服装を心がける。
- ☆風通しの良い涼しい場所で休憩をとる。

※日陰を求めて、他人の敷地内に無断で入らないでください。

作業時、休憩時に関わらず、もし敷地に入る場合は必ず一言断りを入れましょう。

□互助会からのお知らせ

◇黒石よされについて

今年の黒石よさは、諸般の事情により不参加となりました。

□理事長のつぶやき ～子どもは国の宝～

日時は思い出せないが、6月下旬にラジオのスイッチを捻ると、こんなことが流れてきた。神奈川県や東京都等の都市部の深刻な社会問題となっている待機児童の話の中で、「住宅街への保育園や学校等の建設に反対する住民がある」という。このことは都会だけでなく、全国でも同じ現象が起きていて、反対の中心にいるのが私と同じような団塊の世代以上の人達と聞いて、正直耳を疑った。

現在の日本少子化は、生まれてくる人が少なくて高齢者が増えている現状を誰もが理解し、心配していると思ったが、それが少し違っていた。何故かなと思ったが、ラジオのコメンテーター（解説者）の話によると、幼少期に育った環境が背景にあるという。

戦中・戦後の真只中に生まれ、全国の各家庭では家主がデンと腰を据え、それを囲むように大人数の家族（10人前後の大家族が多かった）が、家主の顔色を窺うというような時代で、しかも生きていくための食糧も少ないため、子ども達は連日取り合い奪い合いで、決して良い思い出がないというのが原因らしい。

また、甲高い子どもの声はストレスに感じる人も多く、それが反対の声になっているとのこと。反対している人達的心情は、自分達の苦い思い出が先行し、現在日本が抱えている少子高齢化を理解しながらも、静かで楽しい暮らしを謳歌したいという気持ちが入り混じっているという。

日本の人口は約1億2,501万人（29年1月1日現在）、青森県の人口は約129万人だが、30年後には日本人は1億人、青森県は100万人を切って、国も県も維持できなくなるような統計が突きつけられている。

私はこう考える、自分達高齢者はあと生きても20～25年位だろう、しかし保育園の子ども達は70～80年も生きるわけだから、そのことを考えることが出来れば、もっと豊かに生活出来るのではないかと。甲高い子どもの声がイヤというなら、多少金がかかっても二重窓や防音材で補強するなど、少し工夫すれば快適に過ごす方法はあるのだ。

地方にあっては、地場産業の育成（まちの特徴を活かす）を徹底して実施し、税金や教育事情の各負担の軽減を徹底して行うとか、とにかく住みやすい社会環境の構築などを期待したい。少子高齢化、とりわけ少子化問題を解決しないと、将来、年金・医療をはじめ、国の存続すら危ないということを心配せずにはいられない、ラジオの番組でした。

子どもは何にも代えることが出来ない、国の宝であることをもう一度肝に銘じてほしいと願うものである。

発行 公益社団法人黒石市シルバー人材センター

〒036-0306 青森県黒石市大字内町61番地1

TEL 0172-52-5131

緊急連絡先 080-6011-5131